

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団溥姚会		
事業所名	グループホーム ひかる		
所在地 (電話番号)	浜松市南区御給町263	(電話) 053-426-8866	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年5月30日		

【情報提供票より】(20年 5月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 15日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	2 人
常勤換算	14

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	420 円	昼食 630 円
	夕食	840 円	おやつ 210 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 3日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	7 名	要介護2	2 名			
要介護3	7 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	77 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が経営し、医療面での支援体制が整っている。利用者の状態が変化した場合に、夜間帯でも相談ができる体制がとられているので家族としても安心して生活ができるとの声も多い。ホームでのターミナルケアも実施しているため、入院後の再受入れ体制も十分である。生活面においても、一人ひとりのADLを把握し、リハビリを行うことによって、機能低下の防止に努めており、利用者の笑顔が見られる。またホーム内にとどまらず、外出や買い物等の支援に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題として市町との関わりについてあげたが、市が政令市となったため、区役所が身近になったことにより、協力体制も取れてきている。今後は運営推進会議等への参加を依頼し協力体制をさらに整えたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員全員で行えなかったが、全員が自己評価を行うことによって、自分たちのケアについて話し合い、更なるサービスの質の向上につなげたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、6ヶ月に1度程度開催している。家族に参加してもらえるよう休日に行っているため、行政の参加が得られなかったが、家族や近隣の方に会議に参加してもらい、ホームを理解してもらえるよう働きかけを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に対しては、面会時に職員が現在の状態を報告したり、変化があった際は、迅速に電話連絡をして密な連携を図っている。また、ホームページには家族専用のページがあり、いつでも「溥姚会通信」を見ることができる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩に出かけたときは、近隣の方々と挨拶や話しをし、野菜をもらう等、日常的に交流ができています。近くにある施設等との交流もあり、夏祭り等に参加している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム名の「ひかる」は、利用者に明るく希望に満ちた生活をして欲しいとの考えがあり、利用者に対して、人生の先輩としての尊厳を持ち、ゆったりと生活できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的なホーム作りを目標として経営者、管理者、職員が一体となり、利用者が安心して生活を送れるよう支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の施設等や地域の住民との交流を積極的に取り組んでいる。外出時は近隣の住民と挨拶を交わしたり、取れた野菜等を頂いたりして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が前回の評価結果を確認し、管理者、職員間での話し合いをしている。	○	職員が評価項目を見て評価をすることで、気付くことも多いため、更なるサービスの質の向上に結びつけるよう、全職員間で自己評価に取り組まれない。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、近隣の方の参加を得て、開催されており、ホームの理解に努めている。	○	今後、行政や地域包括支援センター等にも参加を呼びかけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所に訪問したときは、情報交換を行っている。	○	今後も情報交換を積極的に行い、事業所の実情やサービスの課題等を伝え、共にサービス向上に向けて取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームページ上に「溥姚会通信」を掲載し、いつでも家族が見ることができる。面会時には近況の報告を積極的に行い、体調の変化時は、電話連絡を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に運営会議に参加してもらい、要望を聞き、運営に反映している。苦情に対しても職員、外部者に知らせる体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が良く、退職や異動は少ないが、職員が退職したときは、他の職員が関わりを多くして利用者には負担がないよう対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への参加を積極的に行っており、希望に応じて、研修に参加できる体制がある。研修参加者は内容について、他の職員にミーティング等で伝えるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の福祉施設や特別養護老人ホームとの関わりを通して、意見交換を行っている。また外部研修会等で交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込みがあった場合は、見学や一日体験での利用をしてもらう等の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内において、できるだけ自立した生活を送るために、できることを見つけたり、得意なことをやってもらえるように支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面接を通して、本人及び家族の思いや希望を把握し、会話の中から本人の思いを引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム内において、可能な限り、自立した生活を送れるよう、利用者や家族の思いを受けた後、職員間で検討しながら、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に評価を行い、変化がみられたときには、本人や家族と話し合ったり、連絡を取り合いながら介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護計画に沿って、機能低下を防止するため、法人のリハビリのサービスの提供を受けたり、美容院や受診等、生活に必要なサービス提供をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも対応できる体制ができており、体調の変化があれば受診やホームに往診に来てくれる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療の支援体制が整っているため、重度化や終末期について希望があった場合は、医師、家族、職員で話し合い、終末の看取りも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを大切するように心がけ、人生の先輩としての尊厳を持ってコミュニケーションを取り家族の一員という気持ちを持って生活をしている。また、個人情報に係る書類の取扱いについて管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や得意とすることを尊重し、利用者本位の生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注の食事を利用しているが、ご飯や汁物等を作ったり、片付けも職員と一緒にやっている。職員は利用者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った支援を行っており、毎日入浴することが可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員が利用者に食事の準備、後片付け、洗濯たたみ等の中から得意なことをできるよう言葉掛けをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩に出かけたり、買い物に出掛ける機会を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、部屋の施錠は行っていない。利用者が外に出掛けるときは、職員が付き添い見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っており、安全への配慮をしている。	○	今後、近隣の方等とも協力体制を整えるため、運営推進会議等で地域に協力をお願いしていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食べたい物を聞き、献立を考えている。また、水分補給やカロリー、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりしており、段差が無く、手すりも設置している。台所で一緒に作業ができるよう高さの工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物を持ってきてもらえるよう家族に話し、生活に支障のないよう配慮している。		